

令和 6 年 5 月 19 日現在

機関番号：32629

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K12848

研究課題名（和文）ものづくり中小企業のグローバル戦略 -海外展開後の拠点間マネジメント-

研究課題名（英文）Global Strategies for Manufacturing SMEs - Management after Internationalization

研究代表者

浜松 翔平（HAMAMATSU, Shohei）

成蹊大学・経営学部・准教授

研究者番号：00751257

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、日本の経済停滞とアジア市場の成長を背景に、資源が限定された中小企業の国際展開の成功要因を探究した。経営戦略の形成に不可欠な「市場の低流動性」の理解、重要な経営資源として「アレンジ能力」と「関係的資産」の特定、国内事業の構造転換を促す海外取引のパターン発見、及びグローバル経営の優位性と人材育成の役割を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義としては、日本の中小企業の国際経営における重要な経営資源と事業展開戦略を明らかにした点にある。また、社会的意義としては、中小企業が企業経営を行う上で日本という事業環境で蓄積した経営資源の重要性を示し、海外展開と国内事業の活性化を実現するための方法を指摘した点にある。

研究成果の概要（英文）：This study explored the success factors for the international expansion of small and medium-sized firms with limited resources. We identified the understanding of "low market liquidity" as essential to the formation of management strategies, the identification of "modification capability" and "relational assets" as important management resources, the discovery of patterns of overseas transactions that promote structural transformation of domestic businesses, and the role of global management advantages and human resource development.

研究分野：国際経営

キーワード：中小企業 ものづくり 国際経営

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

近年、日本の経済成長が停滞している一方で、アジアを中心に新興国の顕著な成長を背景に、低コスト生産や現地需要を求めて、日本企業はアジアへの生産シフトを加速させてきた。大企業のアジア生産シフトが一巡した2000年以降は、海外での需要獲得を目指して中小規模の企業でも海外展開を行っている。これまでは、顧客が海外に展開している1次下請企業や家電産業など日本で製造する利点が小さい産業に属する企業がメインであった。ところが、最近アジア市場の急速な発展の影響で、さらに小規模な中小企業も、アジア地域への海外展開をおこなうケースが急速に増えている。先行研究では、大企業における多国籍展開についての研究蓄積がなされてきたが、経営資源が限定的な中小企業の国際経営については解明が進んでいなかった。

2. 研究の目的

経営資源の限られている中小企業にとって、海外展開は容易ではない。不本意な撤退を経験している企業も存在している。加えて、経営課題として海外事業の立ち上げだけではなく、国内事業を再活性化する必要性が高いことが多い。つまり、海外での事業確立と国内拠点の活性化の両立という複雑なマネジメントが求められている。そこで本研究では、「経営資源の限定的なものづくり中小企業が国際展開によってグローバルに企業成長を果たすための成功要因とは何か」について明らかにすることを目指した。

3. 研究の方法

本研究は、フィールドワークに基づく定性的事例研究法を用いた。国内外の企業経営者へのヒアリングや文献の調査を通じて、企業の成長過程の変化を捉えることが特徴である。具体的には、本研究開始以前にデータ収集を行っていた中小製造業を再訪し、インタビューと資料収集を行い、時間的展開を追った。これまでの訪問で得た企業資料やインタビュー記録に加えて、社史、新聞記事、雑誌、企業内広報資料も収集し分析した。加えて、新たな企業事例の収集も行い、これらのケースを基に研究課題の解明を進めた。新型コロナウイルスの影響で研究計画が困難になる場面もあったが、Zoomなどのオンラインビデオツールを活用し、フィールドワークが困難な状況に対処した。

4. 研究成果

本研究から得られた結論は4つにまとめられる。第一に、日本の中小企業の事業環境についての理解である。中小企業は内部の経営資源が限定的であることのみならず、事業を行う外部環境からの影響も強く受ける存在である。そのため事業環境の理解は経営戦略を検討する上で重要な知識となりうる。本研究では日本の中小企業が事業を行う環境として「市場の流動性」という概念に着目した。日本の「市場の低流動性」という、中小企業の置かれた事業環境を理解することで、その環境下で蓄積できる経営資源やその結果発揮できる企業の強みを理解することができる点が明らかになった。第二に、海外での事業展開に重要な「アレンジ能力」と「関係的資産」の二つの経営資源を特定した。「アレンジ能力」とは、既存の製品や工程、作り方をアレンジすることでお客さんを満足させる能力のことである。資源が少ししかなくと

も、小さい組織で有利に発揮できるという特徴がある。加えて、日本という市場の流動性が低い事業環境にいたことが蓄積するのに有利な能力であった。第二に、「関係的資産」である。関係的資産とは顧客が持つ自社に対する能力の理解と信頼のことである。これらの二つの経営資源が、国内外の事業成功に寄与することが示された。第三に、海外展開が国内の事業構造転換を促す典型的パターンが見出された。海外において、新しい産業の顧客と取引を行い、関係的資産を蓄積することで国内の事業転換を行うというものであった。海外での取引相手は日系企業であった。日本に本社がある日系企業をターゲットに取引を行うことで、日本本社が顧客の日本本社と取引を行うことができるようになった。その背後にあるメカニズムは、関係的資産の拠点間での共通利用である。情動的経営資源である関係的資産は国内外で同時に利用できたのである。第四に、中小企業のグローバル経営の優位性が識別された。既存構造の中での競争力の維持、所属する産業転換の促進、および海外事業を通じた人材育成などを指摘できた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 浜松翔平・中野竜司	4. 巻 69(12)
2. 論文標題 ものづくり中小企業のグローバル経営戦略 -タイ・オオタテクノパークで成長した中小企業の取り組み-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 商工金融	6. 最初と最後の頁 5-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 張文テイ・岸保行・浜松翔平	4. 巻 107
2. 論文標題 中国の酒類市場における清酒の位置づけ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新潟大学経済論集	6. 最初と最後の頁 85-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 浜松翔平	4. 巻 -
2. 論文標題 第2章「ものづくり企業の稼ぐ力」の源泉 稼ぐ力のポイント分析 1.株式会社ナガセインテグレック	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中部圏ものづくり企業の稼ぐ力に関する調査研究報告書	6. 最初と最後の頁 13-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 浜松翔平	4. 巻 -
2. 論文標題 第2章「ものづくり企業の稼ぐ力」の源泉 稼ぐ力のポイント分析 7.東洋精鋼株式会社	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中部圏ものづくり企業の稼ぐ力に関する調査研究報告書	6. 最初と最後の頁 37-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浜松翔平・岸保行	4. 巻 49(1)
2. 論文標題 海外清酒市場の実態把握 - 日本酒の輸出と海外生産の関係 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 成蹊大学経済学部論集	6. 最初と最後の頁 107-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浜松翔平・岸保行	4. 巻 52(1)
2. 論文標題 日本食レストランの海外普及におけるアソートメント・コーディネーターの役割 -米国における日本食品卸売商社の日本酒流通の事例から-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 成蹊大学経済経営論集	6. 最初と最後の頁 89-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 浜松翔平
2. 発表標題 学会賞受賞者講演「ベンチャー企業における情報戦略：情報活用のための交渉プロセス」
3. 学会等名 日本情報経営学会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kishi, Y., & Hamamatsu, S.
2. 発表標題 Globalization of Sake: How is Japanese Sake Localized in a Local Context?
3. 学会等名 The Association of Japanese Business Studies (AJBS) 31st Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shohei Hamamatsu
2. 発表標題 Role of the global headquarters of SMEs
3. 学会等名 ABAS Conference 2020 Summer
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関